

令和元年度 技術・家庭科 授業充実（改善推進）プラン

昨年度のプランの検証

- ・技術領域・家庭領域とも家庭や地域での生活体験が少ないため、作業における基礎・基本が習得できていない生徒が多くみられた。与えられたことは取り組むことができるが、作品を自分で工夫したり、作業を効率的に行ったりするような、自ら工夫することは苦手である。
- ・週1回の授業での技術の習得・知識の定着を図るため学習授業形態・教材の工夫をしている。

課題（各観点について）

観 点	分 析
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・向上はしているが授業規律が身に付いていない生徒がみられる。 ・生活体験・経験が非常に少ない生徒が多くみられる。
生活を創造工夫する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・知識をもとに自分で考えて工夫し、創り出すことが難しい。 ・日常生活との関連づけができず、生活を豊かにしようと工夫することが難しい。
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の完成に重きをおいて、発想の工夫やアイデアが足りない作品が見受けられる。技能を習得する力は十分にもっている。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を習得する力はある、理解する力がある。 ・応用や活用は難しい。特に生活面での活用力が乏しい。

授業改善のポイント（調査結果等を踏まえて）

授業規律の確立と徹底をする。
日常生活でも活用できる教材を工夫し、興味・関心の高揚を図る。
技能の習得では、基礎的な作業や体験を重点的に行い、実践的、体験的な活動を多くする。
資料の活用と体験的な学習を多く取り入れ、生活を豊かにする能力を養うとともに、習得した知識を基に生活に応用や活用する力を育成する。

- 【1学年】…真面目に授業を受けようとする姿勢の生徒が多いが、実習では同じ班の生徒とおしゃべりをして集中しない場面も見られる。
- 【2学年】…真面目に授業を受けようとする姿勢の生徒が多いが、より高いものを目指すための創造や工夫するための経験や知識に乏しい面がある。
- 【3学年】…真面目に授業を受けようとする姿勢の生徒が多い。また授業に対して関心・意欲を示すが、効率的に作業をしたり、創造・工夫をしたりする事がまだ苦手である。

授業改善策

家庭での学習課題などの実施により日常生活との関連性を持たせ、知識と実体験の連携がとれた指導を目指す。

- ・ものづくりを通して生活を豊かにする意欲を高める指導の工夫。
- ・知識と技能を関連づける教材の開発
- ・作業進度に差がある生徒の個別指導…机間巡視、個人の進捗のチェックなどを徹底する

- 【1学年】…授業規律の向上を図り生活に関連する学習内容と創造・工夫を高める教材の研究を行う。
- 【2学年】…ICTによる資料提示や体験学習などの工夫、知識の定着を図り作品の質を高めるための研究を行う。
- 【3学年】…ICT等を通して、より効率的な作業や創造・工夫して作品に取り組みさせる。学んだ知識や技術を実生活の中で生かすことができる力を育成する。